



## ナス出荷規格を変更

### なす部会出荷目揃え会

本JANAなす部会は、平成29年度4月からナスの出荷規格を従来の1袋500gから、県外主要産地の出荷規格である1袋5本定数(400g)に変更することしました。生産者の作業の効率化と品質向上を図り、販売額1億円突破を目指します。

同部会は4月26日、市場担当者を招き、ナスの出荷規格変更に伴う出荷目揃え会を開きました。部会のハウスナス生産者40人員中35人が参加。市場担当者やJAの担当職員が出荷規格の変更について説明しました。

同部会の渡邊正彦部会長は「袋詰め作業の簡素化で出荷数量を増やし、部会員の所得向上に繋がりたい」と話しました。

本JANAの平成28年度の園芸部門の販売額は5億2千900万円。そのうち、ナスの販売額は9千650万円と、全体の18%(1位)を占め、JANAの園芸部門における主力作物となっています。



出荷規格について説明する本JANAの担当者

## 期待の米新品種「だて正夢」

### 田植え始まる



「だて正夢」の田植えをする渡邊祐紀さん

東部支店管内(古川師山)の渡邊正紀さんは5月1日、宮城県の水稲新品種「だて正夢」の田植えを行いました。

渡邊さんは「東北194」や「ひとめぼれ」など5品種を8.4畝に作付けしており、そのうち約1畝に「だて正夢」を植え付けました。

田植え作業をした孫の渡邊祐紀さんは「4月1日に種をまき、苗の生育は順調だった。消費者の方に食べたいと思ってもらえる米作りをしたい」と新品種栽培への意気込みを話しました。この日は、家族4人と協力し、約3時間で植付けをしました。刈取りは9月中旬頃を予定しています。

本JANAでは、水稲4,286畝の作付けを計画。そのうち「だて正夢」の試験栽培を、6戸が3.1畝で行う予定です。

## 管内16小学校へ

### 食農教育教材を寄贈

管内の小学生に食と環境・農業への理解を深めてもらうため、本JANAはJAバンク発行の高学年向け補助教材「農業と私たちのくらし」を、管内16の小学校に合わせて865部を贈りました。

4月25日、佐々木稔組合長が大崎市立古川第三小学校を訪れ、児童代表の同校5年生兵藤世津(せ)さんに教材を手渡しました。

同校の大内充校長は「子どもたちにはこの教材で、生きるために大切な『食』への関心を高めてもらいたい」と話しました。

この取り組みは今年で10年目を迎えます。本JANAでは管内小学校などへの野菜の苗や種子、肥料など学童農園で使用する農業資材を無償提供するなど、食農教育事業に取り組んでいます。



児童代表の兵藤さん(中央)に教材を手渡す佐々木組合長(左) 右は大内校長